



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第99号

2019年5月1日

2019年度年次総会・研究発表・シンポジウム

令和最初の総会は縁の太宰府天満宮で

見学会では神話のふるさと・高千穂を満喫

6月22日(土)に太宰府天満宮(福岡県太宰府市)で開催する今年の年次総会・研究発表・シンポジウムの概要が別紙(3頁)の通り決まった。

総会に引き続いての研究発表では李春子氏の「山・川・里・海を繋ぐ東アジアの『伝統の森』文化誌」など。また今回は、海神・綿津見命を祖とする阿曇氏直系の子孫で、「山誉漁獵祭」の斎行で知られる志賀海神社の平澤(阿曇)憲子権禰宜に、祭りや「漢委奴国王」の金印が出土した志賀島と大陸との関係などについて説明いただく。

シンポジウムでは、昨今、自然災害によって社叢の被災が増加していることなどから、過去の災害が社叢にどのような影響を与えてきたかを検証できれば、今後の社叢復旧・復興に資するであろうという観点から「社叢と災害史」をテーマに設定。

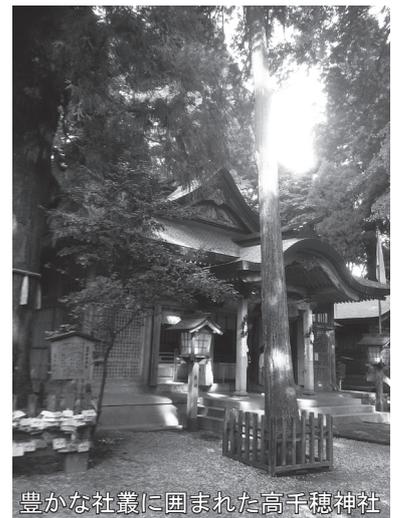
基調講演は森本幸裕理事(京都大学名誉教授)が、パネルディスカッションでは、東日本大震災後の社叢調査において、植生調査を担った渡辺弘之の副理事長(京都大学名誉教授)、都市開発の観点から被災地を視た糸谷正俊副理事長(林総合計画機構相談役)と、熊本地震後の社叢の状況

を調査研究した藤田直子理事(筑波大学教授)が、上甫木昭春理事(大阪府立大学名誉教授)のコーディネーターで、社叢が災害からどのように復興・復活するのか、今後の災害にどう備えるか、などを議論する。

懇親会終了後には見学会のために高千穂に向かって移動。翌23日は、

巨樹が目を引く下野八幡大神社を皮切りに、高千穂神社では正式参拝、夜神楽の拝観、さらには高千穂峡、天岩戸神社、天安河原など、神話のふるさと・高千穂のハイライトを巡る。

なお、正会員で総会にご欠席の方は必ず委任状をお送り下さい。



豊かな社叢に囲まれた高千穂神社

藪田理事長が埼玉県の「本多静六賞」を受賞

藪田稔理事長(京都大学名誉教授・秩父神社宮司)が「本多静六賞」を受賞した。これは埼玉県が、森林に関する学術研究や実践活動に尽力し、森林や公園の造成等を通じ、社会に貢献した日本初の林学博士である本多静六博士の功績をたたえ、緑と共生する社会づくりを推進するため、学術研究又は実践活動で貢献した個人又は団体を表彰するもの。今年で第12回目で、14件の個人・団体の推薦応募の中から選考委員会での審

査を経て決定された。

受賞理由は、(1)鎮守の森の研究を推進 (2)鎮守の森や里山の保全活動の実践 (3)鎮守の森を核とした地域活性化への貢献 の3点で、特に(3)において、「氏が理事長を務めるNPO法人社叢(しゃそう)学会は、全国の鎮守の森の保全を行うとともに、地域社会における鎮守の森を核とした祭りや伝統芸能の復活による地域おこし等に貢献している」と、当学会での活動が評価された。



出雲大神宮参拝と磐座登拝

話題提供：津軽 俊介(花明山植物園元園長)



(↑)パワースポットとして信仰を集める磐座(特別の許可を得て立ち入り)
(←)梅原猛氏の揮毫になる石柱



台風被害が生々しい社叢



(↘)亀岡ではここにしかないアオダモ
(↑)亀岡の名木に指定されているイチイガシ
(←)津軽氏の説明を聞きながら社叢を巡る

祭神：大国主命・三穂津姫命(后神)
創建：不明(元明天皇和銅2(709)年に初めて社殿を造営)

出雲大神宮は亀岡盆地東部の御蔭山(みかげやま)の山麓に鎮座、山を神体山として祀り、今も禁足地として厳に立ち入りを禁じている。社殿は和銅2年(709年)の創建と伝えられ、現社殿は鎌倉末期の建立で重要文化財。

「元出雲」とも称されるが、出雲大社が出雲大神宮からの分霊とする社伝に由来する(『丹波国風土記』逸文に「元明天皇和銅年中、大国主神御一柱のみを島根の杵築の地に遷す」の記述があるとするが、その逸文は不詳)。出雲大社は明治時代までは「杵築大社」を称していたため、江戸時代末までは「出雲の神」と言えば出雲大神宮を指していたとされる。

2004年に社叢学会亀岡支部が御陰山で行った調査では、『レッドデータブック近畿2001』に「絶滅危惧種C」とされるコバノチョウセンエノキの自生を発見するなど、貴重な植物が数多く確認されている。

この日は、正式参拝の後、土屋晴義禰宜の案内で本殿裏の山道にある磐座を目指した。社叢は今年の台風21号による大きな被害を受けており、土砂崩れ跡など

が生々しい。山に入ってすぐにパワースポットとして訪れる人の多い磐座に着く。昨今、石を削り取る者がいるとのことで、結界が張られているが、特別に立ち入りをお許しいただき、直接手を置くことができた。さらに山道を進ると素戔鳴尊、奇稲田姫命を祭神とする上ノ社にでる。この社殿は1813(文化10)年造営とされる大型の一間社流造で、一間社としては珍しく前室を有する。ここから少し急な坂道を上がると国常立尊を祀る磐座にでる。

ここで津軽俊介・元大本花明山植物園園長と落ち合い、まずヤマトアオダモについて説明を聞いた。ヤマトアオダモは亀岡ではここにだけ生育しているが、この他にも亀岡ではここ以外では見つからない植物があり、積年の謎とされていたが、地質調査の結果、ここだけが石灰質であることがわかり、謎が解けたという。左右の社叢の植物の話聞きながら山道を下ると、これも亀岡ではここにだけに生育する野生種のイチイガシが聳え立っている。真っ直ぐに伸びる姿には神木にふさわしい風格を感じる。

その後、参集殿で土屋禰宜から、出雲族はインドからゴビ砂漠をこえ、バイカル湖から樺太を越えてやってきた部族であるという壮大な伝承や出雲大社、また大本教との関係などについて聞いた。

台風被害を受けて水度神社で社叢緊急調査

社叢学会では、水度神社の依頼を受けて2012年に参道林を、翌年には社叢調査を実施した。その後、昨年10月の台風21号による倒木被害や、京都府暫定登録文化財史跡指定など、状況が大きく変化すると同時に、住民からは安全性確保と景観保全を両立してほしいとの希望が寄せられ、今後の社叢・参道林のあり方を検討する必要に迫られてきた。

そこで3月6日に、特に緊急性の高い地区で、参道林の問題点や課題を抽出し、その保全・再生方策等を立案する基礎資料とするための現況調査を実施した。今回は、平成24年調査でリストアップした88本のうち、特に緊急性の高い地区の概ね10m以上の高木約15本を対象とした。

調査結果をもとに、各樹木の防災・景観緊急対策を検討したが、その際の考え方は、以下の通り。

①腐朽が進み、倒木危険性が高い樹木は根元から伐

採する ②腐朽が進み、台風などによる倒木の際、民家への影響が多大な樹木は、主幹の上部から伐採する ③道路上に大きくはみ出している高枝を伐採する ④高枝部分が密生し、風当たりの強い樹木については、風通しを良くするための剪定を行い、良好な景観を保持育成する ⑤樹形が傾き、倒木時に通行被害の恐れのあるものは、主幹部上部を伐採する ⑥緊急対策の措置後も随時経過観察を行い、災害防止と景観保全に努める。

これをもとに15本の樹木について、根元からの伐採(2本)、主幹上部からの伐採(7本)、道路はみだし高枝の処置(1本)、高枝襲定(4本)を指示した。

さらに今後の課題として、(1)参道林に関する役割分担の見直しについて (2)調査費の確保および参道林保全整備の主体形成 (3)社叢学会の参加協力のあり方の検討の3点を挙げた。

理事長ら故上田正昭名誉顧問の墓参

関西定例研究会にあわせて3/23に

3月22日の理事会、23日の関西定例研究会のために上洛した菌田稔理事長の、かねてから希望していた上田正昭名誉顧問(前理事長)の墓参が実現した。

当日は、宮内寛監事の案内で、菌田理事長、渡辺弘之副理事長、糸谷正俊副理事長、森本幸裕理事が亀岡市穴太地区の共同墓地に向かった。山際の墓地の奥まった一面に上田家の墓所がある。彼岸の中日直後とあって、いずれの墓所もきれいに掃除されて花が飾られ、清々しい風が流れている。

上田名誉顧問は数年前に先立たれた夫人の傍らに

眠っておられる。墓誌には生前の業績が刻まれ、今さらながらに、その大きな足跡に頭が下がる。

時折、鳥の声が響くだけの静かな墓前で、しばし生前のお姿を思い浮かべる一時となった。



上田正昭名誉顧問墓石 傍らには夫人が眠る

次回予告【第83回関西定例研究会】

- ◆日 時：7月27日(土) 13:30~16:30
- ◆場 所：賀茂別雷神社(上賀茂神社)(北区上賀茂本山339)
- ◆テ - マ：賀茂別雷神社(上賀茂神社)参拝と社叢拝観
- ◆講 師：田中 安比呂(賀茂別雷神社宮司)
松谷 茂(京都府立植物園名誉園長)

次回予告【第79回関東定例研究会】

- ◆日 時：7月27日(土) 14:00~16:30
- ◆場 所：國學院大學常磐松ホール(東京都渋谷区東4-10-28 変更の可能性あり)
- ◆テ - マ：ジャポニスム(ポーラ伝統文化振興財団特別企画)
- ◆講 演：鬼と仏-日本人の信仰の姿
- ◆講 師：J.A.キブツ(元フランス国立科学研究センター教授)
川寄瑞穂(神戸大学 日本学術振興会特別研究員PD)
- ◆上映映像：鬼来迎 鬼と仏が生きる里(38分 2014年制作)
- 共催：國學院大學環境教育研究プロジェクト・ポーラ伝統文化振興財団

book book book book book book

聖なる天蓋 神話世界の社会学

ピーター・L・バーガー著 園田 稔訳

初版から39年を経て再版された宗教社会学の古典的名著。著者のP.L. バーガー(1929-2017)は、ウィーンに生まれ、後にアメリカに移住、社会における〈知識〉と〈宗教〉の二領域を有機的に捉えるという、従来の社会学には当てはまらない新しい視点で大きな反響を呼んだ社会学者。

「宗教現象に対して、知識社会学から導かれた一般理論的な視角を適用しようと試みた」難解な学術論文ではあるが、訳者によるバーガー理論の解説となる巻末の「訳者あとがき」を一読の後、本文に取り組みと理解が進むかもしれない。

10連休にじっくり腰を据えて取り組んではいかがだろう。(ちくま学芸文庫 定価千200円+税)

八重山の御嶽 自然と文化 李 春子編著

長年、アジアの伝統の森の文化誌、植物誌を調査研究してきた李春子氏が沖縄県の八重山地域のウタキを渉猟し尽してまとめた一書。

まず「八重山の御嶽巡り60撰」では、各ウタキを見開きで、「由来及び地域誌」「祭礼」「植生」の3項目とふんだんなカラー写真で紹介する。次の「八重山の御嶽-「祈り」と「祭り」の祭祀空間」は、編著者によるこれまでの知見をまとめた論文だが、これにもふんだんに写真が使われ、読みやすい内容となっている。

また、地元の筆者が、唄を通じた小浜島の稲作とウタキの関わりを扱った論考、ウタキの巨樹・巨木の報告、さらには台湾の樹木の病虫害専門家が、危機に瀕するウタキの樹木の保全を呼び掛ける一文を寄せている。

資料編はウタキの22種の樹木誌と、ウタキと集落との関係が見て取れる村落絵図の写真からなり、まさに八重山伝統の信仰を網羅したものとなっている。(榕樹書林 定価2千800円+税)

沖縄の聖地 御嶽 神社の起源を問う

岡谷公二 著

もう1冊、ウタキをテーマにした著作を紹介する。著者の岡谷公二氏は既に、『原始の神社をもとめて』『神社の起源と古代朝鮮』『伊勢と出雲』(いずれも平凡社新書)で原始の神社を追い求めてきた足跡を世に問い、「岡谷神社学」とも呼ばれる独自の探究を60年に渡り続けている。

昭和36年、まだアメリカ軍政下にあり、厳しい

渡航制限のあった沖縄を訪れた著者は、波照間島で初めてウタキの存在を知り、その「何もないことから来る清浄感、神秘感」は比類がなく、…このような聖地を日本人が持ち得ていたことに「深く感動。以後、沖縄通いが始まり、ウタキにのめり込んでいく。

ウタキの起源について考える中で、ウタキへの信仰が古神道のありようを伝えるという柳田・折口説に異を唱え、沖縄産の貝や貝製品が黒潮に乗って北上して弥生時代の日本本土にもたらされた「貝の道」と、九州以北に点在する森だけの聖地の共通性に気づいたのは必然であっただろう。神社の起源を求める著者の足はさらに済州島へ、慶州へと延びる。

「強い宗教的意志のあらわれとさえ言える」「何もなさ」に打たれた著者の長い旅路はまだ続くのだろうか。青い海の光り輝くリゾート地とは一味違った沖縄を知るためには必読か。

(平凡社新書 定価800円+税)

事務局から

- 今年の総会は、新年号の決定でにわかに注目が集まる太宰府天満宮での開催です。今回は土曜日に一連の会合を終えたあと、高千穂を目指して移動、宿泊付きの見学会となります。高千穂神社では、夜神楽を特別に拝観する他、天岩戸神社参拝など、神話のふるさとを満喫する内容です。公共交通機関ではいささか行き難い所です。ぜひご参加ください。

なお、参加費はできるだけ事前にお振り込み下さいますようお願いいたします。口座情報は3頁に掲載しています。

編集後記

10連休って言われても。当方どちらかというところであ〜〜〜ですよ。この会報を印刷する印刷屋さんもきっちり10連休。休み明けに出稿して印刷して、そこからの発送ではちょっと遅くないかい？

ならば前倒しでというのは誰でも考えることで、印刷機が混むからなるべく早くしてね、と言われてひいひい。休み前に納品してもらって、はいはい、休日出勤いたしますよっと。

で、総会。6/23に終わるということは、7月の会報を作る時間がほとんどないってことかい？！

いつもならばし長閑な空気が流れる時期なのにまたまたひいひい。なんでこんなにいつも急ぎ足なんだろ〜。ハタラケド、ハタラケド、…じっと足を見る。。。 (藤岡 郁)

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL・FAX 075-212-2973

URL <http://www.shasou.org> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内
TEL080-1514-5032 E-Mail shasougakkai@hotmail.com

鎮守の森だよりvol. 99

★太宰府天満宮：菅原道真を祀る全国に1万2千社ある天神社の総本宮の一つ。藤原時平の讒言によって太宰府に左遷され、当地で没した道真の墓所に弟子の味酒安行が祠廟を建てたのが起源とされる。広大な境内には、道真を慕って京都から一夜で飛んできたという伝承を持つ神木の「飛梅」をはじめ、200種、6千本のウメや、国の天然記念物に指定されているクスノキの巨木が歴史の重みを伝えている。

また、新元号「令和」の典拠となった万葉集「梅花の歌三十二首の序文」は、730(天平2)年正月に、大宰帥(大宰府政庁長官)だった大伴旅人の邸宅で開かれた梅花の宴の際に詠まれた和歌につけられたもの。史跡・大宰府政庁跡そばの大宰府展示館には、この宴の様子を博多人形を使って再現した模型が展示されている。

★下野八幡大神社：御祭神＝玉依姫命・品陀和気命・息長足姫命 1192(建久3)年に、岩戸山裏村(現・大字岩戸)ニッ嶽に祀られていた「正八幡」をこの地に移し、後に境内を整え、社殿を建立したとされる。境内には国指定天然記念物のケヤキ・イチヨウ、有馬杉、逆杉など巨木・老木が立ち並ぶ。有馬杉は延岡藩主・有馬直純が島原の乱に出陣の際に戦勝を祈願し、その凱旋報告に参拝して記念植樹したものと伝わる。逆杉は、那須大八郎が平家追討のため椎葉へ行く途中で戦勝を祈願、杉の穂を逆さに挿したものと伝えられている。

★高千穂神社：祭神＝高千穂皇神(たかちほすめがみ)＝瓊瓊杵尊・木花開耶姫命・彦火火出見尊・豊玉姫命・鵜草葺不合尊(うがやふきあえずのみこと)・玉依姫命(以上一之御殿) 十社大明神＝三毛入野命・鵜目姫命・御子太郎命・二郎命・三郎命・畝見命・照野命・大戸命・霊社命・浅良部命(以上二之御殿)

高千穂郷88社の総社で、創祀は第11代垂仁天皇時代(3世紀後半～4世紀前半?)。境内地は天孫降臨の地と伝わる二上山と櫛触峰を結ぶ中間に位置する。1778年に再建された本殿は五間社流造で九州を代表する大規模なもので国の重要文化財。境内は文治年間(1185～90)に源頼朝代参の畠山重忠が植えたという神木の秩父杉(樹齢800年)や2本の杉の幹がつながった「夫婦杉」と呼ばれる巨樹など、鬱蒼たる社叢に囲まれている。

また、鎌倉時代に源頼朝が奉納したという鉄造狛犬は国指定の重要文化財。

★高千穂夜神楽：町内20の集落で、里ごとに氏神を神楽宿と呼ばれる民家や公民館に招き、夜を徹して33番の神楽を奉納する神事。例祭日は集落によって異なるが、11月中旬から翌年2月上旬。国の重要無形民俗文化財に指定されている。全33番の演目は、魂振り・魂鎮めといった呪術的な要素を持つものと、神話などの物語を演じるものと大別される。来訪する神は豊穰をもたらす神であり、その神をもてなし、慰め励まし、再びその恩恵にあずかるべく祈るのが、神楽の重要なテーマとなっている。

★高千穂峡：阿蘇山の火山活動によって噴出した火砕流が五ヶ瀬川に沿って帯状に流れ出し、急激に冷却されたために柱状節理の懸崖となった峡谷で、国の名勝・天然記念物。高いところで100m、平均80mの断崖が東西に約7kmに亘って続く。遊歩道が整備され、日本の滝100選に選ばれた真名井の滝などの渓谷美が楽しめる。約17mの高さから水面に落ちる真名井の滝は、天孫降臨の際、この地に水がなかったため、天村雲命が水種を移した「天真名井」から湧き出る水が水源と伝えられる。付近には神話に由縁のある「おのころ島」や「月形」「鬼八の力石」などがある。

櫛觸(くしふる)神社：祭神＝瓊々杵尊・天兒屋根命・天太玉命・経津主命・武甕槌命 創祀の事情は不詳であるが、古事記に「筑紫日向高千穂之久土布流多氣に天り坐しき」と記載される天孫降臨の地として伝えられる「櫛觸の峯」に創建されていることから、古来、天孫降臨の有力な比定地とされている。櫛觸山の中腹に鎮座し同山を神体山とするため、長く本殿を持たなかった。社殿建立は1694(元禄7)年。

★天岩戸神社：祭神＝大日靈尊(おおひるめのみこと＝天照大神の別称) 岩戸川対岸の断崖中腹にある「天岩戸」と呼ばれる岩窟(跡)を神体とする。古事記・日本書紀には天照大神が弟の素戔嗚命の乱暴に怒り、天岩戸に籠もった事が記してあり、その天岩戸を祀る神社と伝えられる。

創祀の時代は不詳だが、岩窟(天岩戸)を神体とするのは、古くからの信仰形態を示すものと思われる。社伝によれば、瓊瓊杵尊が天岩戸の故事を偲び、その古跡に鎮祭したのが起源。812(弘仁3)年に再興されたが、戦国時代にたびたび焼失したという。社殿前のオガタマノキ(招霊木)の大木を神体とする。オガタマノキは、その実の形が神楽鈴の原型とも言われ、高千穂町の木でもある。

★天安河原：天岩戸神社から岩戸川を500mほど遡った所にある河原で、日本神話に登場する岩戸隠れの際に八百万の神々が集まって相談した場所であると伝えられている。河原の中央部の仰慕窟(ぎょうぼがいわや)と呼ばれる洞窟には天安河原宮があり、思兼神を主祭神として八百万神が祀られている。現在、この付近では「願いを込めて小石を積むと願いが叶う」として多数の石積みが見られる。

見学会ご参加に際してのお願い

- ★ バスの座席には限りがあります。なるべくお早めにお申し込みください
- ★ 宿泊費は各自でご精算ください(参加費には専用バス代、玉串料、昼食代が含まれます)
- ★ 宿泊につきまして、ツインルームのご希望や不要のご連絡は、なるべく早くにお願いいたします
- ★ 参加費はできるだけ事前に下記の口座にお振り込み下さい(振替用紙は同封していません)
郵便振替：口座番号：00950-0-172640 特定非営利活動法人社叢学会
銀行振込：三菱UFJ銀行 京都支店 普通口座6720345 特定非営利活動法人社叢学会
理事長 藪田稔
- ★ 福岡空港には18時到着の予定ですが、途中の道路事情等により遅延することもあります。お帰りの航空便、鉄道便は余裕をもって予約されることをお勧めいたします。なお、福岡空港からJR 博多駅への所要時間は地下鉄で6分です



2019年度年次総会の概要



参加ご希望の方は、5月末日(必着)にて、裏面申込用紙にご記入の上、FAXもしくは郵便にてお送りいただくか、同内容をMailにてお知らせください。但し、見学会はバスが満席になり次第、締め切ります。

	時間	内容
6月22日(土) 総会・研究発表・シンポジウム	10:20	太宰府天満宮社務所前集合
	10:30~11:00	太宰府天満宮正式参拝
	11:00~11:45	年次総会
	11:50~13:00	研究発表 山・川・里・海を繋ぐ東アジアの「伝統の森」文化誌 李 春子 ほか
		事例報告 志賀島神社 一神事に残る古代氏族の阿曇氏の足跡(仮) 平澤(安曇)憲子・志賀島神社禰宜
	13:45~17:20 13:45~14:45 15:00~17:20	シンポジウム「社叢と災害史」 基調講演 森本幸裕・社叢学会理事・京都大学名誉教授 パネルディスカッション パネリスト：渡辺弘之・社叢学会副理事長・京都大学名誉教授 糸谷正俊・社叢学会副理事長・(株)総合計画機構相談役 藤田直子・社叢学会理事・筑波大学教授 コーディネータ：上甫木昭春・社叢学会理事・大阪府立大学名誉教授
	17:30~18:30	懇親会
	18:50	見学会バス出発 (20:30 カンデオホテルズ菊陽熊本空港着)
23日(日) 見学会	7:50	ホテル発
	9:30~10:20	下野八幡大神社参拝と社叢拝観
	10:35~11:50	高千穂神社正式参拝・夜神楽拝観 等
	12:00~13:20	高千穂峡散策と昼食(千穂の家)
	13:30~14:50	穂觸神社→天岩戸神社→天安河原
	18:00	福岡空港着 ※途中休憩あり

参加費(いずれもお1人)

	見学会	懇親会	シンポジウム
正会員・協力会員・賛助会員	10,000円	4,000円	無料
市民会員・同伴する家族	12,000円		
一般	15,000円	5,000円	500円

----- 研究発表・シンポジウムと関連行事参加申込書 -----

FAX：075-212-2973

* ご希望の行事の()欄に○をおつけ下さい。同伴者がいらっしゃる場合は人数をお書き下さい。

() 見学会：同伴 人 () 懇親会：同伴 人 () 研究発表・シンポジウム：同伴 人

会員番号

お名前

携帯電話番号・Mailアドレス等当日連絡先